

歯科衛生士のための
成功へ導く
インプラント
アシスタント

塚原宏泰 著

これで
患者さんも安心！



インプラントの“超”基本

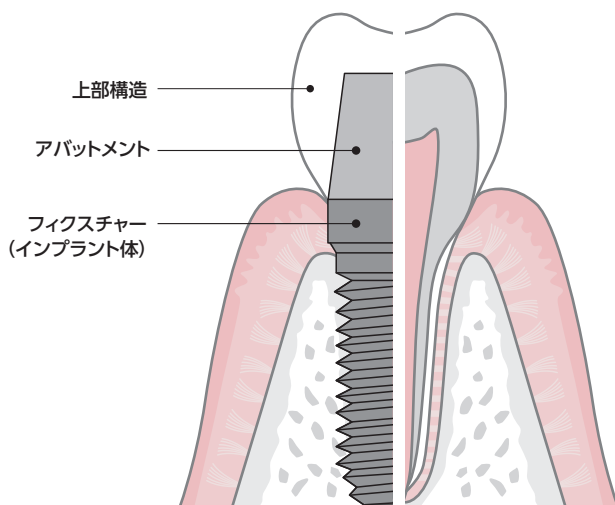


さて、ここからは具体的に「インプラント」についてお話ししていきましょう。患者さんの口の中に入っている実際のインプラントをイメージしながら読んでください。

インプラントの基本構造

まず皆さんに最低限覚えてもらいたいことがあります。それはインプラントの基本構造の3つ、「フィクスチャー」「アバットメント」「上部構造」です。

「フィクスチャー」というのはネジの部分、歯槽骨に埋まる場所ですね。これは「インプラント体」ともいいます。「インプラントの手術」というのは、このフィクスチャーを歯槽骨へ埋め込むことです。



インプラントの基本構造（セメント固定の場合）

紐を持つ

白いラベルを
引っ張る



術者は自分で腰紐を結ぶ

前まで回ってきたら、外回りアシスタントは術者にラベルを差し出し、術者はラベルの先についているヒモを持つ。外回りアシスタントがラベルを引っ張り、紐から離す



完成！



手は下ろさない

滅菌グローブを装着する

まず、滅菌グローブ（以下、グローブ）には表裏があることを知っておきましょう。手洗いをした後の手でも触れるのは「裏側のみ」です。たとえ手洗いをしたとしても、その手指は滅菌されたわけではないので、わずかに菌が残っています。



グローブの折返しの部分（裏側）をつまみ、グローブの表面に触れないように注意しながら手首のところまで装着する



グローブを手首まではめた後も、折り返し部分はそのままにしておく

患者さんとの信頼関係の確立



実際には他の歯科治療でも同じですが、インプラント治療における歯科衛生士の役割としては、主に「患者さんとの信頼関係の確立」「手術のサポートとアシスタント」「メンテナンス」の3つの柱があります。



「手術のサポートとアシスタント」については前章で解説しましたね。ここではまず、「患者さんとの信頼関係の確立」についてお話しします。

信頼関係を築くために 患者さんの話を聞こう

まず大切なのは、患者さんとの信頼関係を確立することです。これによってその後の治療がスムーズに進むかどうかが決まってきます。歯科医師だけに任せるようなことはせず、医院全体で取り組みましょう。むしろ、歯科衛生士のほうが歯科医師より近い距離で患者さんと接しているため、患者さんにとっては話しやすい存在です。

皆さんは内科や外科にかかったとき、医師に何でも聞けますか？「もうそこ

メンテナンス



インプラント治療後にメンテナンスを行う目的

① 残存歯を含めたインプラントの維持

- ・ 残存歯とインプラントの調和
- ・ 残存歯の歯周炎
- ・ インプラント周囲炎の予防
- ・ フィクスチャー・上部構造の破損やスクリュー（ネジ）の緩みの防止

② インプラント治療によって獲得した健康の維持

- ・ 機能の回復（咀嚼嚥下・発音・審美面などにおける QOL）
- ・ 口腔機能の回復につながる健康の維持

メンテナンスでは患者さんが中心となり、歯科衛生士がサポートしながら口腔内の状態を維持していきます。先天欠如や事故で歯を失ったというケースもありますが、一般的には歯周病や齲蝕、咬合の問題などで抜歯に至り、インプラント治療を受けている方が多いと思います。通常、インプラント治療が終わった時点での口腔内は、歯肉の状態やプラークコントロール、補綴装置なども最良の状態ですよね。その状態を維持できるように、またこれ以上歯を失わないように、メンテナンスを行っていきます。そのためには、**患者さんが主体となって、患者さん自身が「健康を維持していきたい」という気持ちをもつことが大切です。**

一方で、患者さんのなかには「これ以上歯を失うことへの恐怖」もありますので、過度に不安を煽ることなく、精神的にもサポートしていく必要があります。歯周病でもそうなのですが、主役は患者さんですので、歯科衛生士は患者さんのサポートに徹する姿勢が大切です。

当院では、特に問題ない患者さんは 30～45 分、十分な指導が必要な患者さんは 45～60 分くらいかけてメンテナンスを行っています。患者さんごとに生活